



熊本県版

No. 235

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

総選挙の取り組み、ご苦勞様でした

# 改憲許さないたたかい急務！

## 勢いづく改憲勢力

まさに「普隠し」ともいうべき1カ月に及ぶマスコミをあげての自民党総裁選キャンペーンと「真子様」フィーバーで国民の目をあざむきながら行われた総選挙―市民連合が提起し4野党が合意した20項目にのぼる「共通政策」の画期的で素晴らしい内容はかき消され、国民・有権者に十分伝わらないまま投票日を迎えてしまいました。

その結果、野党共闘勢力は残念ながら議席を伸ばすことが出来ず、政権交代も実現出来ませんでした。

### 運動の基本

- 一 果たたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 二 治安維持法体制の復活に反対する。
- 三 国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

しかしそんな中でも野党が共闘し、候補者を一本化してたたかった全国59の選挙区で勝利し、その中には現職の甘利自民党幹事長、石原元幹事長など「大物」を打ち破って当選を勝ち取ったところもあります。また当選できなかったところでもこれまで全く歯が立たなかった選挙区で「あと一步」というところまで迫った選挙区も30以上あり、ここであと一頑張りして勝利していれば結果は大きく変わっていたでしょう。

教訓を生かし、来年夏の参議院選挙では何としても勝利を勝

ち取りましょう。

### 安倍氏、最大派閥会長として完全復活！

一方、自民党は議席を若干減らしたものの予想をはるかに上回る絶対安定多数の261議席を獲得し、公明党も32議席に伸ばしました。さらに自民党の補完勢力、改憲の突撃部隊ともいわれる維新の会が改選議席(11議席)の約4倍、41議席を獲得したことは、憲法をめぐる情勢にとっては極めて危険といわねばなりません。維新の松井代表はさっそく、自民党は改憲をやる、やると言いながら全然やらない、「やるやる詐欺だ」と自民党を右から激しく突き上げ、「来年の参議院選挙と一緒に(改憲の)国民投票をやるべきだ」とぶち上げています。それに呼応するかのように国民民主党は野党連携の枠組みから離脱し、玉木代表が、「国会の憲法審査会は毎週でも開くべきだ」などと発言。そして維新と国民は、幹事長・国対委員長会談を開き、国会運営での協調、とりわけ改憲論議の加速などで合意しました。

党として改憲を打ち出している自民、公明(加憲)、維新、国民が衆院の約4分の3を占めるに至った状況の下で、岸田首相は「自民党立憲以来の目標である憲法改正に精力的に取り組

む」と表明し、それを後押しするかのようには、自民党最大派閥である細田派の会長に安倍元首相が就任し、安倍氏が最大派閥の会長として完全復活することになりました。さらに新しく衆院議長に就任した細田氏までが不偏不党であるべき議長の立場を逸脱して「憲法論議の促進」を言い出す有様です。

### 性根を据え、

### 「改憲許すな」「9条守れ」の大運動を！

このように国会だけを見れば衆院、参院とも改憲勢力が3分の2以上を占め、いつでも改憲発議できる危険極まりない状況がつつぎます。しかしそれは、安倍・菅政権の9年間も基本的には同じでした。それを許さなかったのは国会内の立憲野党の奮闘と、それと連携した「9条の会」をはじめとする「改憲反対」「9条守れ」の国民の声と運動です。

総選挙後、改憲諸党が前のめりともいえる勢いで改憲をおおっている今、私たちも「市民と立憲野党の共闘」に結集し、性根を据えて、「改憲許すな」「9条守れ」の声と運動を急速に強めなければなりません。

### 全国大会にむけ、同盟を強く大きく！

国賠同盟は来年6月、第40回全国大会を迎えます。全国大会成功に向けて憲法を守るたたかいと合わせて諸課題を達成するために全力を尽くしましょう。

#### ① 全国2万人、熊本200人の同盟建設

熊本県同盟は現在185人で史上最高の峰を築き、目標の200人にあと15人と迫っています。何としても200人の同盟建設をやり抜きましょう。

#### ② 国会請願署名5,000筆の達成

日本国憲法は治安維持法犠牲者らの血のにじむようなたたかいのうえに勝ち取られた宝です。全会員が署名用紙をもって周りの人と対話することは、そのことを語り広げる活動です。「再び戦争と暗黒政治を許さない」たたかいは「憲法を守る」たたかいです。

#### ③ 映画『わが青春つぎるとも』伊藤千代子の生涯』上映運動を成功させる

映画『伊藤千代子』は10月11日に撮影が始まりました。計画では来年6月ころ、全国公開の予定です。熊本では前回理事会後に熊本県建築労組と熊本県民医連がそれぞれ

#### ④ 支部の強化と新しい支部づくり

映画『伊藤千代子』の上映運動と結合して、八代支部の強化・活性化と、天草支部の結成を目指します。

### 映画「伊藤千代子の生涯」製作 快調！

#### ―来年4月、全国上映スタート―

映画『わが青春つぎるとも』伊藤千代子の生涯』は撮影がほぼ終わり、来年の3月15日に完成試写会、4月上映スタートの予定で順調に進んでいます。当初一般公開は6月の予定でしたが、6月国賠同盟全国大会、7月参議院選挙を考慮し4月に前倒して公開されることになりました。

製作資金(上映債券)募集も11月15日現在で390口(3900万円)に達し、目標の450口にあと一息というところに来ています。熊本でも現在4口確保し、あと2口集めたいと頑張っています。

好評発売中!

# 『治安維持法と現代』No.42

年2回発行の同盟理論誌最新号が届きました。毎号、全国各地で活動する同盟員、知識人の論考にワクワクしながら読み進め、発見を新たにしています。皆さんにも購読を心よりお勧めします。

参考までに私の感想を簡単に記して本の紹介とします。まず目を引いたのは、記者として注目を集めている望月衣塑子氏が「ジャーナリストからみた安倍・菅政権—マスコミの立ち位置—」と題して寄稿しています。また、『戦争と弾圧』の著者額満厚氏が、何を訴えたかったか書いています。特高課長額満弥三の生きざまと思考の原点を明らかにし、戦後もなお国会議員にかえり咲き、「建国記念の日」制定に奔走した姿に治安維持法は生きていると警鐘を鳴らしています。

伊藤千代子に関係する寄稿もいくつもあります。特に注目したのは、石城謙吉氏の「浅野晃—その転向の軌跡—」です。「浅野と千代子を分けたものは何だったのか。社会が戦

前と似た道を歩み始めている今、私たちは自分の身に置き換えて考える必要がある」との指摘は考えさせられました。今回の資料コーナーは、「畑野君枝衆院議員への金田勝年法相(当時)の答弁」と「治安維持法被弾圧犠牲者の諸数値・リスト化」の二つです。

ここでは後者について感想を書きます。私たちは請願署名にもある通り国に犠牲者の実態調査を求めているわけですが、同盟独自の調査でこれまで明らかになった数字は、同盟が発行した『虐殺(弾圧①)』『獄死者(弾圧②)』にまとめられています。さらに今回「昭和三年以降昭和九年治安維持法違反に因り起訴せられたる婦人に関する調査」が11頁にわたって氏名その他が一覧表になって明らかになりました。熊本県関係も4人載っています。戦前の男性中心の社会で、起訴者中の女性の割合が5%もいたことは注目に値します。

なお、起訴者に限られていませんが、梶原氏の『地下水、その噴き出ざるを願って』の中には、犠牲者308人中実に約50人が女性です。改めていろいろな視点で考えることの重要性を痛感しました。(関根 隆)

お申し込みは・TEL090・1366-5004 (関根)

連載その4

## 日中戦争の渦中、 上海で命をかけ反戦闘争

— 西里竜夫の壮絶な半生 —

小田憲郎

上海再上陸—険しい中国人の視線

上海時代の記者仲間や先輩たちの助けもあってふたたび上海に渡った西里であったが、中国人の視線が厳しくなっていることにすぐ気付かされた。理由は三二年一月に始まった上海事件(第一次)における日本軍の蛮行であった。上海事件は満州事変から列国の視線をそらすために関東軍が抗日運動の拠点、上海で仕組んだと言われているが、中国第一九路軍の頑強な抵抗に日本軍は苦戦を強いられ、一般市民も巻き込んで死闘が繰りひろげられた。日本軍は「便衣隊狩り」(便衣は中国人の普段着)と称して、何の罪もない一般市民を捕えては撲殺し南京袋に押し込んで黄浦江に投げ捨てる、もがき苦しむ中国人を南京袋の上から銃剣で刺し殺したなどという話を聞かされても俄には信じられなかった。しかし、以前、中国人が日本人をのしる時には「王八蛋」(バカ野郎)

郎)とか「東洋猪肉」(東洋は日本のこと、猪肉は豚のこと)とかいうのが普通であったが、それが「東洋鬼」(トンヤンキイ)に変わっていたことが、日本軍の所業が中国人の目に悪鬼のように映っていたことの表れだった。

王学文と再会、中国共産党へ入党

西里は先輩たちの奔走で新聞連合通信上海総局に入るこ

とができた。同時に同文書院や日支闘争同盟の同志たちと連絡をとろうとしたが簡単にはいかなかった。やがて弾圧を逃れた日支闘争同盟の同志一人と連絡がつき、中国共産党とのルートがまだ維持されていることも分かった。そして六ヶ月後の一九三四年四月、あの王学文と会うことができた。王学文はその時、中国共産党中央委員会上海弁事処の責任者になっていた。西里は三〇年一月二月に上海を離れて以後三年半の経過を語り、王学文は中国の現状について詳しく教えてくれた。翌五月、王学文の推薦で中国共産党への入党が認められた。当時は、国籍人種等にかかわらず活動する国の党に所属することとなっていたため、西里も中国共産党への入党となったのである。

歌代子と結婚

それに先立つ一九三四年一月、熊本から歌代子が上海にや

ってきた。

歌代子は結核を患っていた。西里は熊本を出る前に医者から歌代子の病状がかなり進んでいることを聞いており、歌代子自身も知っていた。西里は医者の話から余命三年くらいと想っていた。西里の両親や姉たちもそれを心配していたが、西里は歌代子と結婚しようとして決まっていた。それをあわれに思っただけか、西里の兄や姉たちが歌代子を上海に向かわせてくれたのであった。

歌代子は、上海丸の船中で血を吐きながら上海につき、着いた翌日、また喀血し、そのまま寝着いてしまった。西里は歌代子との甘さも華やかさも新しい新婚生活をつぎのように書いていた。

「私たちは新居を構えたとはいえ、甘さも、華やかさもなかった。しかし、悔いはなかった。感傷的かもしれないが、私は、文字通りこの『命がけ』の愛を大切にしようと思った。そして、行く末短い、その一日一日を宝石のように大切にしたい。はるばる海を渡って、遠く異国の地にやって来ながら、上海の街さえ見ることなく病床にある歌代子が、不憫でならなかった。勤務から帰ると、私は彼女の枕辺で、病院代をかせぐために、毎晩、月刊誌『東洋』などの雑誌原稿を書きなぐった。」

『革命の上海で』(一一四頁)

そうしたなかでの中国共産党への入党は、歌代子との生活に、新たな張り合いをもたらした。

#### 侵略戦争の一日も早い終結を願って

西里は、日本帝国主義の中国侵略戦争が中国人民に対する残虐で無法な蛮行であるだけでなく、日本人民に対する過酷な収奪と弾圧、圧制のもとに強行されていることを知っていた。この侵略戦争を一日も早く終わらせることが中国人民と日本人民双方の利益であると固く確信していた。西里にとって、日本国内で日本の共産党に入ると日本帝国主義の戦争政策に反対すること、中国で中国の共産党に入ると日本帝国主義の戦争政策に反対することは矛盾するものではなく、戦争の一日も早い終結を望む人間として至極当然のことであった。

しかしその道は、日本帝国主義にとっては絶対許すことのできない「売国的利敵行為」であり、もしその手に落ちれば直ちに極刑に処せられることを覚悟しなければならぬ道でもあった。

西里はあえてその道を選んだ。

西里の任務は、日本人の反戦勢力の結集と、情勢分析に必要な情報、資料の収集であった。日本人兵士にたいする直接の工作はきびしく禁止された。それは西里を危険にさらさな

いたための配慮であった。

#### 歌代子逝く

歌代子が上海にきて一年六ヶ月の三五年七月、歌代子が逝った。

「自分を大切にしたい、警察につかまらないようにして下さい。そして早く健康なお嫁さんを迎え、これをあげて下さい……」と言って、オパールの指輪を渡し、西里の手をとって「お世話になったねえ」と告げたまま、ロソクの火が燃えつきるように、静かに息を引き取った。

不治の病に侵されながら、愛しい人を追って血を吐きながら海を渡り、異国の地で結ばれ、短いながらもあわせな新婚生活を送り、最愛の人の懐にいだかれて人生を終えた歌代子の生涯——それは弱々しく見えるけれども、典型的な燃える火の国の女の一生と言っているのではないだろうか。

この年の末に、出獄した尾崎庄太郎らが日本での運動が困難になって、西里のもとにやってきた。それは歌代子を喪った直後の西里にとって、何よりももの励ましであった。

#### 敵陣深く

西里は新聞記者という立場を最大限生かし、「取材」でさまざまなところへ入り込んだ。そのころ上海は、南京に首都

をおく蒋介石国民党政府の支配下にあり、激しい「掃共作戦」、共産党殲滅作戦が展開されていたが、西里は国民党政府の中核にも食い込んだ。南京政府の行政院長(首相)兼外交部長の汪精衛(汪兆銘)にも「単独インタビュー」した。しかし、蒋介石だけは、政治的軍事的には常に日本帝国主義に妥協的融和的であったにもかかわらず、いくら面会や取材を申し込んでも日本人記者には会おうとしなかった。

#### “馬馬胡胡” 馬馬胡胡

また西里は、上海では治外法権に守られ、中国官憲の歩哨や検問をフリーパスで抜けられる日本人の特権を生かして共産党や左翼団体の宣伝物などを運ぶ仕事も積極的にやった。もちろん、日本人であっても蒋政権が「殲滅」をめざして血眼になっている共産党や左翼団体の宣伝物を所持していることが分かればただでは済まない。直ちに日本の領事館警察に引き渡され、場合によっては東京警視庁へ護送となる。細心の注意と警戒が求められた。

しかしある日西里は、不覚にもピラを届けた帰途、中国人巡査につかまった。

いくら「おれは日本人だ！」といつてもその巡査は西里を放そうとしなかった。場所が悪かったのか、まだ何か不都合

なものを所持していたのか、日本の領事館警察に引き渡されたらそれこそおしまいである。あわてた西里は、「馬馬胡胡、馬馬胡胡……」（上海語で、いい加減に大目に見てくれという意味）と言つて一ドル銀貨をそつと巡査につかませた。するとその巡査、ニタツと笑つて「馬馬胡胡」といつてその手を放してくれた。西里が一目散に逃げたのはいうまでもない。

すすむ日本人左翼勢力の結集

西里の大きな任務は、情報収集とともに中国における日本人左翼勢力の結集であった。

一九三六年のはじめ、西里は同盟通信社の在華総・支局の会議に出席した。同盟通信社はこの年、日本政府肝いりで、西里が在籍していた新聞連合通信社と、日本電報通信社の二大通信社が「国策」として合併し設立された通信社で、国から独占的特権をあたえられた。この会議で、西里は同文書院の後輩で、満鉄に勤務していた白井行幸と会った。白井から、中西功を中心に浜津良勝、河村好雄、新庄憲光、中村太郎など同文書院グループが満州各地で活動していることを聞き、西里と連絡を取るようにとの中西への伝言を託した。

その伝言を受け、三六年五月、中西功が大連から上海にきた。西里はすぐ、王学文と連絡を取り、満州と上海、中国の

情勢を協議するとともに、満州グループと上海グループの連携などを確認した。これにより、西里を中心とする在支日本人左翼勢力の結集は一気に進み、運動地域も広がった。

同盟通信南京支局に転勤、さらに読売新聞上海総局へ

中西が大連に引き上げた後、七月、西里は同盟通信社南京支局へ転勤となった。連合新聞通信社と日本電報通信社の合併により同盟通信社が誕生したのだが、中国における両社の統合も進められた。とくに日本大使館が南京に新たに開設されたため南京支局の強化が必要となり、西里が派遣されることになったのであった。

だが一〇月に読売新聞上海総局が創設されると、西里は読売新聞で働くこととなり、わずか三カ月で上海に戻ることになった。

(以下次号に続く)

治安維持法と現代を結ぶ総合誌  
**治安維持法と現代**  
 2021年秋号 定価1000円(税込) 送料160円

岸田文雄新内閣の性格と限界 「ジャーナリストから見た安倍・菅政権」 一マスコミの立ち位置— 望月衣麗子 歴史を辿る新たな教科書政教と新聞の闘い、 治安維持法は生きています 石山久雄 「一國一憲法」を論じて考えたこと— 藤田厚 治安維持法と朝鮮・布達漢治政と韓土の活劇 「土庫利用規則法」は韓国憲法の仮面法 横田有史 城塞時代、を共に生きるために 福島清 山宣祭への立法憲法国対委員会メッセージ 治安維持法長官の自公政権金田首相(当時) 答弁 治安維持法で起訴された女性活動家名簿 弾圧犠牲者の青年男性と女性の割合	五土風 仁 望月衣麗子 石山久雄 藤田厚 横田有史 福島清 清水克
--	---

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟  
 〒119-0034東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館  
 TEL.03-5842-6461 FAX.03-5842-6462  
 E-mail chian@bz03.plala.or.jp